

生活発表会だより NO.2

園庭では寒さに負けず元気な声が響き渡っています。冬休みにおうちでたっぷり充電できたようで、鬼ごっこや中当てなど、友達の関わりをより深めながら楽しんで遊んでいます。

厚生労働省から事務連絡により、保護者参加の行事は、地域の感染状況等を踏まえ、感染拡大防止の措置をとるようになっていきます。具体的には、参加人数を抑えること（対象となる子どもやクラスの限定、保護者等の参加人数に制限を加えるなどして最小限とする、参加者間のスペースを確保する）と指示がありました。

今後の感染状況を見ながら、生活発表会の詳細については直前でお知らせすることになります。



劇遊びは話の内容に沿って子ども達が役になりきってお話の世界を楽しむものです。子ども達が1年間を通して、見て、経験・体験して、感じてきたことがそのまま劇遊びに詰め込まれています。各クラスの取り組んでいる劇遊びの様子をご紹介します。

○はとぐみ『かさじぞう』

年末、「かさじぞう」の絵本を読みました。お話が進むにつれて子どもたちはじーっと食い入るように聞いていました。読み終わった子どもたち「なんか心があったかくなった」「なんか優しい気持ちになってきた」「おじいさんおばあさんよかったな」「おじいさんが笠かぶせて優しくしたからおじぞうさんが来たんや」と感想がいっぱい出てきました。何度読んでもこの絵本が始まるとシーンと聞き入ってお話の世界に浸っています。

特にお地蔵さんのそり引きが好きな様子で「じょいやさ〜ってお祭りみたい」「じょいやさ〜でおみやげもってこよう」と担いだり、引っ張ったりするしぐさを始める子も出てきました。お話遊びが進むに連れてどんな会話やしぐさが出てくるか、子どもたちの姿が楽しみです。



○つばめぐみ『アラジンと魔法のランプ』

初めて、子ども達に「アラジンと魔法のランプ」のお話を読み聞かせた時の、子ども達の目の輝きは、キラキラしていました。読み終わると「おもしろい!!」「ランプから魔神が出てきたなあ」「どうやって入るとんやろなあ」「宝石のなる木がほしいなあ」と感じた言葉があふれるようになってきました。

アラビア調の曲を流すと「へびみたいに踊ったら上手に踊れるで」と年長児がクネクネと体をくねらせて踊ってみせ、3、4歳児も年長児の姿を見て、同じように踊っています。魔神になったり悪い魔法使いになったりしながら、「大きい岩があるで」「ごちそうも作らなあかん」と劇で使いたいものの製作もすすんでいます。



○かなりやぐみ『わんぱくだんのたからじま』

数あるわんぱくだんシリーズから、かなりやぐみを選んだのは『わんぱくだんのたからじま』という海賊になってたからじまを目指すお話です。夏頃から海賊に興味を持ち、海賊になりきって歌を歌ったり表現を楽しんだりしていたかなりやぐみの子どもたちにぴったりのお話でした。「今度はどんな海賊になろう!」「カッコいい海賊かなあ?」「海賊になるためには望遠鏡と、剣がいる!」「じゃあ怪獣はどうやって作る?」とイメージを膨らませながら張り切っています。かなりやぐみの子どもたちと一緒に海賊船に乗ってたからじまを目指す冒険を楽しんでいきたいと思います。



○かもめぐみ『ケロリンピック』

ケロリンピックとは、カエルのオリンピック。昨年は残念ながら日本でのオリンピックは行われませんが、かもめぐみではケロリンピックに向けて選手たちの準備が着々と進んでいます。オリンピックといえば、選手入場からはじまり、選手たちがいろんな競技や演技に挑戦します。絵本の中でもカエルたちが楽しそうにいろんなことに取り組んでいます。かもめぐみのケロリンピックではどんなことをしようかな・・・とみんなで想像していると「あれもしたい」「これもしたい」とやりたいこといっぱいです。いったいどんな競技や演技が見られるのでしょうか。選手たちのやる気は満々です!



○ひばりぐみ『おとのさまとにんじゃ』

ひばりぐみの劇遊びは「おとのさまとにんじゃ」という創作話です。誰も見たことも聞いたこともないお話をペープサートで披露した時には新鮮さも釘付けになっていました。

子ども達が大好きな忍者や今、流行りの?“オニ”、見たことないけどカッコいい“龍”などの表現をしたり、「オニってこんな顔かな?」「忍者のあの忍法こんな動きとかどう?」と友達に披露合っています。でも、実際に見たことのない龍の動きは難しく、「龍って羽もないのに飛んでるよな」「空を泳いでるみたいやな」と、いろんな想像をしながら考えています。また、忍者の刀をさっそく作ったY君に刺激を受けて、他の子たちも次々と製作を始めています。

ひばり組の子ども達が次々とアイデアを出して表現が広がっているところです。

